

## アメリカ、オーストラリアのハイスクールの カウンセリングとわが国の活動への示唆

林

潔

学校カウンセリングについて、この分野で先駆的役割をはたしているアメリカと、戦後教育の中にとり入れたオーストラリアとを対比して考える。そしてわが国のこの分野の方向について考えたい。

### 1. ハイスクールにおけるカウンセリング

アメリカの学校カウンセリングは、20世紀初期より展開する。すなわち、Parsons(1909), Bloomfield (1915), Kitson (1915), Stanley Hall と児童研究運動、1909年の Freud の Clark 大学における講演とそれによる精神分析の普及、初期の精神衛生運動と第1次大戦後の精神測定運動がこの背景となる。

これより先、Michigan 州 Detroit の Central High School の Jessie Davis は、1898年以前に class counselor として500人の生徒を対象にカウンセラーの仕事をおこなった。彼は1907年に校長になると、自校にカウンセラーを雇用した。1916年までに、彼の着想は38州に及んだ (Odell)。

現在のアメリカの学校カウンセリングのモデルは、1930年代末に形成されたものである。そして1958年の National Defence Education Act 以降、学校カウンセラーの数はいちぢるしく増加する。

アメリカのハイスクールにおけるカウンセラーの問題については、(1)ガイダンスの事務的業務に時間がさかれすぎている (担任は生徒の問題にタッチしない)、(2)カウンセラーが学校や地域社会の価値観の拘束を受ける、(3)人格理論と現場教育との分離 (福井) が指摘されている。

現在の学校カウンセラーの業務は、一般の相談活動のほか、管理者へのコンサルテーション、クラスへのコンサルテーションとカリキュラムの開発、性教育プログラムに及ぶ。また、グループ・カウンセリングも伝統的なガイダンスのみではなく、学習技能、人間関係、麻薬、性教育をふくむものである。

1977年現在のカリフォルニア州の学校におけるカウンセラー対生徒の比は1:803であ

る。これは、幼稚園より第12学年にまでわたる平均である。けれども、カウンセラーの主要な活動の場は、ジュニア・ハイスクール（第7～9学年）、シニア・ハイスクール（第10～12学年）である。ハイスクールにおけるカウンセラー対生徒の比は、1 : 550 である。心理的サービス担当者は、このほかに School Psychologist がある。カリフォルニアの場合、生徒に対する比は1 : 2,100 である。カウンセラーが比較的正常な教育上の問題、個人的問題、職業についての問題や計画を扱うのに対して、School Psychologist は多様な心理測定法と評価による診断と処置、学習上の問題をもつ生徒に対する業務をおこなうものである。

カウンセラーの関心は、学習環境にも向けられている。Blocher は、学習環境に与えるカウンセラーの衝撃として7つのモデルを示している。すなわち、(1)包括の条件（学習者は心理的にも学習環境の中にあること）、(2)挑戦の条件（学習者は適度の緊張のもとにあること）、(3)支持の条件（学習者は学習環境における他の人により、共感、配慮、正直さを経験していること）、(4)構造の条件（学習者は自己の水準よりも、よりすすんだ機能の例を知りうること）、(5)フィードバックの条件（新しい構造に関連した行動を練習できる機会をもつこと）、(6)応用の条件（新しい考え方、技能、態度を問題解決、関係の満足という多様な現実場面に試みることができること）、(7)統合の条件（新しい学習経験を、安全な、熟考できる、急ぐ必要のない環境で、ふり返り、批判的に検討し、評価できること）である。

オーストラリアの学校カウンセリングは、第2次大戦後発足した。従って現在においても流動的状况にある。

各州の学校カウンセラーは、State Dept. of Education に雇用される（他に、Marriage Guidance and Child Guidance や Youth and Community Services のような地域機関に雇用されるカウンセラーがある。これらは学校カウンセラーと連携する。）。

オーストラリアの学校カウンセラーは、訪問カウンセラーである。たとえば、ニューサウスウェールズ州の都市部の学校カウンセラーは、原則としてセンターとしてのハイスクールに週2日出席し、さらに4校の幼児学校と4校の小学校を2週間に1回の割合で訪問する。カウンセラー1人当りの担当生徒数は、1977年現在で約3,000である。地方部では、教師が1名あるいは2名しか在勤していない学校も少なくない。たとえば、同州の Hay-Wentworth 地区の学校カウンセラーは、ハイスクール7、幼児、小学校32を担当するが、担当生徒の数は3,000以下である。学校カウンセラーは、学習への助言、職業ガイダンス、障害児診断、心理テスト、教師とのコンサルテーションなどをおこなう。

学校カウンセラーの免許は、大学の心理学主専攻者で、教員資格取得者であって、2～3年の教職経験ののち、Dept. of Education が実施する1年の養成コースを受講する。この内容は、カウンセリングの理論と技術、グループ・ダイナミックス、児童の成長と発達、今日の教育の問題、ケースワーク、カウンセラー・ロールの分析、精神測定、地域組織について、講義、集団討議、セミナー、実習、フィールド・ワークをおこなうものである（他に

Macquarie 大学に修士課程がある)。

現在ニューサウスウェールズでは、毎年 60 人の学校カウンセラーの養成をおこなっている。これは、1980年代までにカウンセラー対生徒の比を 1 : 1,000 にまで減じることを目的とするものである。

## 2. カウンセリング活動の現状

ハイスクールにおけるカウンセリング活動についての質問紙を、アメリカ（カリフォルニア、ニューヨーク州）、オーストラリア（ニューサウスウェールズ、ビクトリア州）のシニア・ハイスクールを対象に郵送し、

表 1 調査対象

回答を依頼した。対象校は各州の学校名簿より、アメリカは各州 100、オーストラリアは各州 60 を抽出した。実施の時間は、1977年 8 月～78 年 3 月である（表 1）。

	ア メ リ カ		オーストラリア	
	カリフォルニア	ニューヨーク	N. S. W.	ビクトリア
発 送	100	100	60	60
回 収	51	59	37	29
回 収 率	51.0	59.0	61.7	48.3

表 2 カウンセリング・センターの設立状況等

	ア メ リ カ		オーストラリア	
	カリフォルニア	ニューヨーク	N. S. W.	ビクトリア
生徒カウンセリング・センターが学校にありますか				
1. 公 式 に ある	44 ( 86.3)	54 ( 91.5)	33 ( 89.2)	14 ( 48.3)
2. 非 公 式 に ある	4 ( 7.8)	4 ( 6.8)		4 ( 13.8)
3. な い	1 ( 2.0)	1 ( 1.7)		4 ( 13.8)
4. そ の 他	1 ( 2.0)		2 ( 5.4)	6 ( 20.7)
5. 無 記 入	1 ( 2.0)	1 ( 1.7)	2 ( 5.4)	1 ( 3.4)
計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
貴校のカウンセラーの地位は				
1. フルタイム、学校所属	46 ( 90.2)	52 ( 88.1)		7 ( 24.1)
2. フルタイム、教育省所属		1 ( 1.7)	11 ( 29.7)	2 ( 6.9)
3. パートタイム、学校所属	7 ( 13.7)	6 ( 10.2)	8 ( 21.6)	2 ( 6.9)
4. パートタイム、教育省所属	2 ( 3.9)		19 ( 51.4)	13 ( 44.8)
5. そ の 他	1 ( 2.0)	1 ( 1.7)	1 ( 2.7)	2 ( 6.9)
6. 無 記 入	1 ( 2.0)		3 ( 8.1)	3 ( 10.3)
計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
生徒カウンセリング・センターの組織				
1. 校 長 直 属	11 ( 21.6)	26 ( 44.1)	7 ( 45.9)	9 ( 31.0)
2. 生徒サービス部門所属	20 ( 39.2)	25 ( 42.4)	8 ( 21.6)	6 ( 20.7)
3. そ の 他	8 ( 15.7)	11 ( 18.6)	9 ( 24.3)	9 ( 31.0)
4. 無 記 入	2 ( 3.9)	1 ( 1.7)	4 ( 10.8)	5 ( 17.2)
計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)

表 3 カウンセリング・センターの活動内容

	ア メ リ カ		オーストラリア	
	カリフォルニア	ニューヨーク	N. S. W	ビクトリア
1. 個人面接	49 (96.1)	58 (98.3)	34 (91.9)	26 (89.7)
2. 一般的情報提供	48 (94.1)	57 (96.6)	26 (70.3)	17 (58.6)
3. オリエンテーション	39 (76.5)	54 (91.5)	19 (51.4)	9 (31.0)
4. グループ活動	37 (72.5)	46 (78.0)	25 (67.6)	12 (41.4)
5. レクリエーション	1 (2.0)	2 (3.4)	1 (2.7)	6 (20.7)
6. 学習上の問題への援助	41 (80.4)	48 (81.4)	30 (81.1)	15 (51.7)
7. 教育ガイダンス	50 (98.0)	47 (79.7)	32 (86.5)	19 (65.5)
8. 職業ガイダンス	50 (98.0)	47 (79.7)	21 (56.8)	19 (65.5)
9. その他	13 (25.5)	17 (28.8)	10 (27.0)	4 (13.8)
10. 無記入			3 (8.1)	3 (10.3)
計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)

表 4 生徒カウンセリング・センターにおける生徒の問題

	ア メ リ カ		オーストラリア	
	カリフォルニア	ニューヨーク	N. S. W	ビクトリア
1. 大きな心理的混乱や神経症的生徒のため				
しばしば	2 (21.6)	1 (27.1)	1 (35.1)	6 (20.7)
時折	9 (21.6)	15 (27.1)	12 (35.1)	6 (20.7)
まれに	32 (62.7)	35 (59.3)	19 (51.4)	16 (55.2)
ない	6 (11.8)	7 (11.9)	1 (2.7)	4 (13.8)
無記入	2 (3.9)		4 (10.8)	3 (10.3)
計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
2. 個人的問題で混乱し、ゆううつになっている生徒のため				
しばしば	16 (84.3)	17 (84.7)	24 (89.2)	11 (89.7)
時折	27 (84.3)	33 (84.7)	9 (89.2)	15 (89.7)
まれに	6 (11.8)	7 (11.9)	1 (2.7)	1 (3.4)
ない				
無記入	2 (3.9)	1 (1.7)	3 (5.1)	2 (6.9)
計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
3. 学業上の問題をもつ生徒のため				
しばしば	29 (90.2)	36 (96.6)	20 (83.8)	12 (89.7)
時折	17 (90.2)	21 (96.6)	11 (83.8)	14 (89.7)
まれに	3 (5.9)		3 (5.1)	1 (3.4)
ない				
無記入	2 (3.9)	1 (1.7)	3 (5.1)	2 (6.9)
計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
4. コースや学習について助言を要する生徒のため				
しばしば	46 (96.1)	54 (98.3)	11 (62.2)	16 (86.2)
時折	3 (5.9)	4 (6.8)	12 (32.3)	9 (31.0)

			ア メ リ カ		オーストラリア	
			カリフォルニア	ニューヨーク	N. S. W	ビクトリア
ま	れ	に			10 ( 16.9)	1 ( 3.4)
な		い			1 ( 2.7)	1 ( 3.4)
無	記	入	2 ( 3.9)	1 ( 1.7)	3 ( 5.1)	2 ( 6.9)
	計		51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
5. 職業計画について助言を要する生徒のため						
し	ば	し	41 ( 96.1)	56 ( 98.3)	6 ( 64.9)	19 ( 82.8)
時		折	8	2	18	5
ま	れ	に			7 ( 18.9)	2 ( 6.9)
な		い			3 ( 8.1)	1 ( 3.4)
無	記	入	2 ( 3.9)	1 ( 1.7)	3 ( 8.1)	2 ( 6.9)
	計		51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
6. 試験不安の生徒のため						
し	ば	し	2 ( 66.7)	12 ( 88.1)	4 ( 73.0)	3 ( 62.1)
時		折	32	40	23	15
ま	れ	に	15 ( 29.4)	6 ( 10.2)	7 ( 18.9)	7 ( 24.1)
な		い				1 ( 3.4)
無	記	入	2 ( 3.9)	1 ( 1.7)	3 ( 8.1)	3 ( 10.3)
	計		51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
7. 学習習慣, 効果的読書, ノートのとり方の訓練を要する生徒のため						
し	ば	し	13 ( 80.4)	15 ( 83.1)	21 ( 81.1)	10 ( 72.4)
時		折	28	34	9	11
ま	れ	に	6 ( 11.8)	8 ( 13.6)	4 ( 10.8)	4 ( 13.8)
な		い	2 ( 3.9)			1 ( 3.4)
無	記	入	2 ( 3.9)	2 ( 3.4)	3 ( 8.1)	2 ( 6.9)
	計		51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
8. 上級水準の学習技能の訓練を要する生徒のため						
し	ば	し	6 ( 64.7)	7 ( 67.8)	6 ( 62.2)	4 ( 44.8)
時		折	27	33	17	9
ま	れ	に	13 ( 25.5)	18 ( 30.5)	8 ( 21.6)	11 ( 37.9)
な		い	3 ( 5.9)		3 ( 8.1)	2 ( 6.9)
無	記	入	2 ( 3.9)	1 ( 1.7)	3 ( 8.1)	3 ( 10.3)
	計		51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
9. 道徳的, 宗教的問題について指導を要する生徒のため						
し	ば	し	2 ( 43.1)	5 ( 35.6)	2 ( 37.8)	1 ( 24.1)
時		折	20	16	12	6
ま	れ	に	25 ( 49.0)	31 ( 52.5)	7 ( 18.9)	13 ( 44.8)
な		い	2 ( 3.9)	5 ( 8.5)	3 ( 8.1)	5 ( 17.2)
無	記	入	2 ( 3.9)	2 ( 3.4)	3 ( 8.1)	4 ( 13.8)
	計		51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)

		ア メ リ カ		オーストラリア	
		カリフォルニア	ニューヨーク	N. S. W	ビクトリア
10. 経済的問題について援助を要する生徒のため					
しばしば		5	14	1	2
時		20 ( 49.0)	35 ( 83.1)	6 ( 18.9)	7 ( 31.0)
ま	れ	23 ( 45.1)	7 ( 11.9)	19 ( 51.4)	16 ( 55.2)
な		1 ( 2.0)	1 ( 1.7)	8 ( 21.6)	2 ( 6.9)
無	記	2 ( 3.9)	2 ( 3.4)	3 ( 8.1)	2 ( 6.9)
	計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
11. 住居、居住条件について援助を要する生徒のため					
しばしば		1	2		
時		14 ( 27.5)	25 ( 45.8)	5 ( 13.5)	7 ( 24.1)
ま	れ	30 ( 58.8)	26 ( 44.1)	14 ( 37.8)	12 ( 41.4)
な		4 ( 7.8)	5 ( 8.5)	14 ( 37.8)	8 ( 27.6)
無	記	2 ( 3.9)	1 ( 1.7)	3 ( 8.1)	2 ( 6.9)
	計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
12. 生徒自身が特に大きな混乱や悩みがなくとも、 他の人と話す機会を必要とする生徒を援助するため					
しばしば		34	40	24	15
時		13 ( 92.2)	16 ( 94.9)	8 ( 86.5)	10 ( 86.2)
ま	れ	2 ( 3.9)	2 ( 3.4)	2 ( 5.4)	2 ( 6.9)
な					
無	記	2 ( 3.9)	1 ( 1.7)	3 ( 8.1)	2 ( 6.9)
	計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
13. 性についての知識や実際についての助言を要する生徒のため					
しばしば		9	13	3	4
時		22 ( 60.8)	28 ( 69.5)	22 ( 67.6)	14 ( 62.1)
ま	れ	17 ( 33.3)	16 ( 27.1)	8 ( 21.6)	6 ( 20.7)
な		1 ( 2.0)	1 ( 1.7)		3 ( 10.3)
無	記	2 ( 3.9)	1 ( 1.7)	4 ( 10.8)	2 ( 6.9)
	計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)

生徒カウンセリング・センターの設立状況は、ビクトリア州のみいくぶん異なる。アメリカのカウンセラーは学校所属が原則であるが、オーストラリアの場合は州教育省に所属する(表2)。

カウンセリング・センターの活動内容は、学習上の問題への援助、教育ガイダンス、職業ガイダンスにも比重がおかれている(表3)。ハイスクールのセンターで扱う生徒の問題は、いわゆる病理的問題はむしろ少なく、教育的カウンセリングが中心となる(表4)。

カウンセリングで使用するテストは、興味テスト、職業適性検査の反応が比較的高い(表5)。カウンセリングの理論的背景は、いずれも来談者中心カウンセリングの反応が最も高く、グループ・アプローチがこれに続く(表6)。

表 5 生徒カウンセリングに使用されているテスト

				ア メ リ カ		オーストラリア	
				カリフォルニア	ニューヨーク	N. S. W.	ビクトリア
パーソナリティ・テスト							
	し	ば	し	2	2	3	
	時		折	8 ( 19.6)	11 ( 22.0)	14 ( 45.9)	4 ( 13.8)
	ま	れ	に	9 ( 17.6)	23 ( 39.0)	6 ( 16.2)	9 ( 31.0)
	使	用	せ	17 ( 33.3)	17 ( 28.8)	9 ( 24.3)	10 ( 34.5)
	無		ず	15 ( 29.4)	5 ( 8.5)	4 ( 10.8)	6 ( 20.7)
		記	入	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
		計					
知 能 検 査							
	し	ば	し	12	31	20	2
	時		折	14 ( 51.0)	20 ( 86.4)	10 ( 81.1)	6 ( 27.6)
	ま	れ	に	10 ( 19.6)	3 ( 5.1)	2 ( 5.4)	4 ( 13.8)
	使	用	せ	7 ( 13.7)	3 ( 5.1)	1 ( 2.7)	11 ( 37.9)
	無		ず	8 ( 15.7)	1 ( 1.7)	3 ( 8.1)	5 ( 17.2)
		記	入	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
		計					
興 味 テ ス ト							
	し	ば	し	14	22	4	2
	時		折	17 ( 60.8)	31 ( 89.8)	11 ( 40.5)	7 ( 31.0)
	ま	れ	に	2 ( 3.9)	4 ( 6.8)	6 ( 16.2)	6 ( 20.7)
	使	用	せ	1 ( 2.0)	1 ( 1.7)	12 ( 32.4)	9 ( 31.0)
	無		ず	7 ( 13.7)	1 ( 1.7)	3 ( 8.1)	5 ( 17.2)
		記	入	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
		計					
職 業 適 性 検 査							
	し	ば	し	18	24	2	5
	時		折	23 ( 80.4)	25 ( 83.1)	2 ( 10.8)	3 ( 27.6)
	ま	れ	に	2 ( 3.9)	5 ( 8.5)	4 ( 10.8)	5 ( 17.2)
	使	用	せ	2 ( 3.9)	1 ( 1.7)	23 ( 62.2)	10 ( 34.5)
	無		ず	6 ( 11.8)	3 ( 5.1)	5 ( 13.5)	6 ( 20.7)
		記	入	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
		計					
そ の 他							
	し	ば	し	3	12	10	1
	時		折	6 ( 17.6)	14 ( 44.1)	5 ( 40.5)	3 ( 13.8)
	ま	れ	に	3 ( 5.9)	5 ( 8.5)	4 ( 10.8)	5 ( 17.2)
	使	用	せ	4 ( 7.8)	2 ( 3.4)	8 ( 21.6)	8 ( 27.6)
	無		ず	34 ( 66.7)	25 ( 42.4)	10 ( 27.0)	12 ( 41.4)
		記	入	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)
		計					

カウンセラーの他の生徒パーソネル・サービスの担当者は、表7のとおりである。アメリカの場合、その他として School Psychologist, Health Nurse, Reading Specialist, Remedial Speech Teacher, Remedial Math, Careers Adviser があげられる。オーストラリア

の場合は、地域の大学 (University) の相談機関の利用があげられている。

学校カウンセリングの方法論も、事例に対応してプログラム化されている (表8)。

表 6 学校カウンセリングの理論的背景

	ア メ リ カ		オーストラリア	
	カリフォルニア	ニューヨーク	N. S. W	ビクトリア
1. 来談者中心カウンセリング	33 ( 64.7)	41 ( 69.5)	23 ( 62.2)	21 ( 72.4)
2. 行動主義カウンセリング	14 ( 27.5)	11 ( 18.6)	14 ( 37.8)	7 ( 24.1)
3. 折衷的カウンセリング	26 ( 51.0)	30 ( 50.8)	22 ( 59.5)	4 ( 13.8)
4. 特性因子理論のカウンセリング	1 ( 2.0)	3 ( 5.1)	1 ( 2.7)	
5. 実存分析, 現存在分析	3 ( 5.9)			2 ( 5.4)
6. 交 流 分 析	8 ( 15.7)	3 ( 5.1)	7 ( 18.9)	2 ( 5.4)
7. 精 神 分 析		1 ( 1.7)	2 ( 5.4)	3 ( 8.1)
8. 催 眠				
9. ゲシュタルト・セラピー	3 ( 5.9)	2 ( 3.4)		3 ( 8.1)
10. グループ・アプローチ	19 ( 37.3)	18 ( 30.5)	15 ( 40.5)	8 ( 21.6)
11. そ の 他	1 ( 2.0)	5 ( 8.5)	2 ( 5.4)	4 ( 10.8)
12. 無 記 入	3 ( 5.9)		5 ( 13.4)	5 ( 13.5)
計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)

表 7 カウンセラー以外のパーソネル・サービス担当者

	ア メ リ カ		オーストラリア	
	カリフォルニア	ニューヨーク	N. S. W.	ビクトリア
1. クラス担任教師	9 ( 17.6)	14 ( 23.7)	15 ( 40.5)	13 ( 44.8)
2. チューター	15 ( 29.4)	13 ( 22.0)		1 ( 3.4)
3. アドバイザー	17 ( 33.3)	19 ( 32.2)	16 ( 43.2)	3 ( 10.3)
4. そ の 他	12 ( 23.5)	25 ( 42.4)	17 ( 45.9)	11 ( 37.9)
5. 無 記 入	10 ( 19.6)		5 ( 13.5)	8 ( 27.6)
計	51 (100.0)	59 (100.0)	37 (100.0)	29 (100.0)

表 8 テスト不安の治療 (例)

	グループ数	ポジティブな変化	変化しない	うたがわしい, 不明	ポジティブな変化比
個 人 脱感作 (リラクセーションを含む)	4	3	1	0	75.0%
多様な脱感作	1	1	0	0	100.0
計	5	4	1	0	80.0
脱 感 作	19	14	2	3	73.7
多様な脱感作	10	7	2	1	70.0
グループ 脱感作と他の技術	7	6	0	1	85.7
リラクセーション訓練	4	0	2	2	0
モデリング	4	1	3	0	25.0
規定できないもの	1	0	1	0	0
そ の 他	6	5	0	1	83.4
合 計	51	33	10	8	64.7



### 3. わが国の活動への示唆

わが国の学校カウンセリング活動が、教育の場においてどのような評価を受けているか。

表 9 わが国の学校教員のカウンセリングの評価

	小	中	高	特 殊	計
学校におけるカウンセリング活動の評価					
1. 児童，生徒に役立っている	6	3	20	6	35 ( 59.3)
2. 児童，生徒に役立っていない		3	4	1	8 ( 13.6)
3. どちらともいえない	1	1	2	1	5 ( 8.5)
4. そ の 他	3	2	2	3	10 ( 16.9)
5. 無 記 入			2		2 ( 3.4)
計	10	9	30	10	59 (100.0)
カウンセリングの理念，原理，方法の教育へのとり入れ					
1. とり入れている	6	4	17	8	35 ( 59.3)
2. とり入れていない	2	2	4		8 ( 13.6)
3. そ の 他	1	1	5	2	9 ( 15.3)
4. 無 記 入	1	2	4	1	8 ( 13.6)
計	10	9	30	10	59 (100.0)
カウンセリングの理念等が応用されている領域					
1. 教 科 教 育	4	1	9	4	18 ( 30.5)
2. 道 徳 教 育	2	1	1	2	7 ( 11.9)
3. 特別教育活動	3	2	6	3	14 ( 23.7)
4. 生 徒 指 導	6	6	16	6	34 ( 57.6)
5. 進 路 指 導	1	2	12	4	19 ( 32.2)
6. そ の 他	2		3	3	8 ( 13.6)
7. 無 記 入	3	3	7	1	14 ( 23.7)
計	10	9	30	10	59 (100.0)
回答者が影響を受けているカウンセリング理論					
1. 来談者中心カウンセリング	3	3	15	2	23 ( 39.0)
2. 行動療法，行動カウンセリング	1	1	3	2	7 ( 11.9)
3. 折衷的カウンセリング	1	2	2		5 ( 8.5)
4. 特性因子理論のカウンセリング					
5. 実 存 分 析	2		1		3 ( 5.1)
6. 現 存 在 分 析			2		2 ( 3.4)
7. 精 神 分 析	1	1	3		5 ( 8.5)
8. 交 流 分 析			2		2 ( 3.4)
9. 催 眠	1		2		3 ( 5.1)
10. ゲシュタルト・セラピー			1		1 ( 1.7)
11. 現 実 療 法			1		1 ( 1.7)
12. グループ・アプローチ			2	2	4 ( 6.8)
13. そ の 他	1		1		2 ( 3.4)
14. 無 記 入	4	6	11	5	26 ( 44.1)
計	10	9	30	10	59 (100.0)

[illegible]

好意	<p>生徒に対し、とかく一方的に directive な態度をとりがちであったが counseling を学ぶことによって、少しは理解的、共感的な接し方ができるようになった。又様々な問題に対し、分析的、診断的興味をもつようになった。(高)</p>	<p>相談、助言を求めているが、消極的できっかけをつかめずにいる生徒を援助。(高)</p>
意	<p>具体的な精神上の悩みの外、無意識的な問題行動要因を除去する上に役立っている。(高)</p>	<p>とくに、1. 浄化と解消、2. 自己理解と洞察、3. 新しい目標と実行活動の段階をとる非指示的相談方式。(高)</p>
的	<p>学級担任が受容の精神で子どもに接していくという接し方により影響を与えている。(小)</p>	<p>ひとりひとりの児童が無意識的に思っていることは外には表現できない。それらのことを教師が仲介役(産婆役)になって意識化してみること。また一つの問題についてもさまざまな意見や価値判断があります。それを十分に比較検討する場面設定をする。その点でカウンセリングの理論や技術を取り入れて効果的にできる。(小)</p>
中	<p>人間を知的にだけでなく全人的にとらえようとする。そこから主体的な学習や生活態度をそだてるといふ面で役立っていると思います。(高)</p>	
立	<p>現在のカウンセリングは、現在の学校教育に不適応な生徒を問題にするわけですが、現在の学校教育そのものが問題なので教育の荒廃は学校教育そのものにあるわけです。精神病理学の診断からは可能でしょうが、教育そのものの立場からは正常と異常とを判定することは困難です。そこにむしろ社会の診断と治療の方法が科学的に研究されるべきで心理技術はむしろそれを問題にすべきではないでしょうか。(高)</p>	<p>生徒の人の知れず悩むとき、その悩をきいてやれるということでしょう。この関係が成立していれば限りない効果を発揮できます。ただこの関係の成立が問題でしょう。(高)</p>
他		<p>これに対しては条件付きでしか肯定できない。知能、性格、境遇ともある水準にある生徒には有効でも、それ以下に極度にひねくれ、発達遅れ、施設や里親を転々としてきた子供は反撥するだけです。(中)</p>

批判的	問題を心理的面にむりして求めすぎている。 (小)	やはり受験体制の中で、生徒の側も教科学習以外のことは適当にあきらめカウンセリングを教師に期待していない。情報提供や興味のわく指導を期待するのであって、それ以上に深く立入って人間の問題、人生や社会の問題について考える余裕が与えられていないと思われます。 (高)
	大多数の中学校の教師は生徒にははじめから信用されていないから。職員会議の決定として何でも押しつけたり、生徒を侮辱する叱り方をする教師が多い現状ではそもそも役に立つ前提がない。多くの生徒の声を知る教師は一校に 0～2 人位であり、それ以外の教師が講習を受けても全く役立たない。(中)	
	中途半端な接触はかえって誤解を生む原因となったり感情的行き違いを生むこともある。 (高)	生徒自身に自覚的結論を見出ださせようとするような誘導尋問方式ともいえる従来のやり方では真に子供の考え方を変更させる迄には至らず、長い目で見てみると教師の一方的、一時的満足だけに終わっていることの方が多い。教育困難校の実態を日々体験している人々の生み出した方法論ではないのではないか。(中)

学校におけるカウンセリング活動については、回答者の 60% より評価を受けている。また、回答者が影響を受けているカウンセリング理論は、来談者中心カウンセリング、行動療法、行動カウンセリングの順となる(表9)。個々の教師が問題に応じて、その方法論を使いわけるといふ傾向もうかがわれる(表10)。

学校カウンセリングについての、好意的、中立、批判的の意見項目の例は、表11のとおりである。

わが国の生徒パーソネル・サービスについて、生徒(生活)指導、進路指導、教育相談の分野を統合し、学校カウンセリングとして一元化することが望ましい(真仁田 他)という指摘がなされている。現状においても、都道府県教育研究所の教育相談員がアメリカにおける School Psychologist としての機能をはたしつつあるといえる。わが国において現行制度あるいはその修正の上に学校カウンセラーを位置づけるならば、職業指導の教員免許を修正し制度化することが当面の方法論と思われる。当該免許取得者に対し、さしあたり大学院修士課程あるいは博士課程前期において必要な訓練を与える。そしてその業務の範囲は相談業務と共に remedial teaching, 学習技能, communication skill の訓練の領域をカバーする必要があると思われる。

#### [参 考]

Aubrey, R.F. 1977 Historical development of guidance and counseling and implications for the future. *Personnel and Guidance Journal* 55, 6.

Blocher, D.H. 1977 The counselor's impact on learning environment. *Personnel and Guidance Journal*. 55, 6.

福井悦男 1969 米国ハイスクール・カウンセリングの問題点 相談学研究 3, 1.

林 潔 1977 青年期の心理と学生相談の展開 ブレーン出版

神保信一 中西信男 富本佳郎 橋口英俊 1978 学校相談心理学 金子書房

- 神保信一 他 1979 児童心理学 小林出版
- Johnson, C.D. ed. 1977 *Guidance personnel 1984* Fullerton, CA.: CPGA
- リーゴン, M.G. マックダニエル, S.W. 小林純一 渡辺三枝子訳 1977 カウンセラーとしての教師 実務教育出版
- 真仁田昭 堀内聡 原野広太郎 江川致成 1976 学校カウンセラー制度の実態と展望 相談学研究 9, 1. 2.
- Michell, K.R., Piatkaweka, O.E. 1976 A review of treatments of test anxiety and their effects on grades. *JANZSSA* 3.
- 中西信男 1972 米国における学校心理学者 沢田慶輔編 学校教育心理学 東京大学出版会
- 中沢次郎 1977 アメリカの学校カウンセラー制度の発達について 相談学研究 10, 1.
- 西昭夫 他編 1979 教育心理学序説 福村出版
- Odell, L.M. 1973 Secondary school counseling: past, present and future. *Personnel and Guidance Journal*. 52, 3.
- Pietrofesa, J.J. 1976 The school counselor in sex education. *Personnel and Guidance Journal*. 54, 7.
- 山田達男, 堀和郎 1976 アメリカの高校におけるガイダンスの専門的制度化と大学進学の実態の分析 日本比較教育学会紀要 2.

付記 カリフォルニア州の資料については、同州 Dept. of Education, Pupil Personnel Services の Lee T. Sheldon 氏をわずらわした。謝意を表す次第である。

## Student counselling services in high school in the U. S. and Australia and some suggestions to our country.

Kiyoshi HAYASHI

This paper is concerned with comparison in school counselling services between U. S. which introduced student counselling into the secondary school in the early days of the twentieth century and Australia which introduced it after the end of the Second World War totally.

176 questionnaires were collected from schools in California and New York State and New South Wales and Victoria State in 1977 and 1978.

Having regarded this survey in the U. S. and Australia I suggested that the certificate of school counsellor in our country have to be amended the certificate of vocational guidance today. And it would be suitable that services of school counsellor are including face to face and group counselling and workshop and remedial teaching.

(はやし きよし 心理学)